

## 『不妊治療時代』

第2回目：「親のプレッシャーに負けて不妊治療スタート」

こんにちは。萱野雫です。

「不妊治療時代」というテーマで5回に分けてお話をしています。

前は「本当は子供は欲しくなかった？」ということをお話をしました。

今日は「親のプレッシャーに負けて不妊治療スタート？」というタイトルでお話したいと思います。

どうぞよろしくお願いします。

32歳を過ぎる頃から、私の両親は「そろそろ子供を作った方がいい」と私にしょっちゅう電話をしてきました。

私の両親は東京から離れた地方に住んでいました。

近くに住んで直接言われるよりいいと思うかもしれませんが、電話でしょっちゅう、多い時には週に2~3回電話をかけてきては、こうるさく言ってきたのですね。

親として子供の行末を心配して...というのは分かるのですが、私としてはうんざりだったんですね。

この前のシリーズを聞いてくださってる方はご存知だと思うのですが、

私は親の反対を押し切って結婚して、2~3年ほど親とは連絡を断っていました。私は「やっと親から解放された！！」という喜びの気持ちでいっぱいだったのに、和解したら、また私の人生に干渉してくるのです。

あなたのご両親、または旦那様のご両親はどうですか？

世の中の大抵の親は「子供はまだなの？」って聞くとします。うざったいですよね。

パートナーのご両親は直接あなたにせかすようなことは言ってこないとは思いますが、旦那様を通して、そんなことが伝わってきたりすると、なんだかプレッシャーというか、気持ちのいいものではありませんよね。

私も20代から31~32歳までは、「余計なお世話！」「うるさい！」って思っていましたヨ。

ただ... 今私は親の世代になっているわけですが、  
もし自分に子供がいたら、「子供はまだ？」って聞いていたような気がしますねえ（笑）

なんだか笑っちゃいますよね。

よくツイッターなんかで、「親が子供に、早く子供を産め」って言ってるのは、

「子供のためなんかじゃなくて、自分のためだろ」っていうのを見ますね。この場合の「自分」は「親」のことなんですけど、

実は、私は正直、今はそんな風には思わないんですよね。

親にもなっていない私が想像だけで言うてしまうのですが、

恐らく「親」というのは、客観的になってアドバイスしてるつもりだと思うんですよ。

親によっては、それに「世間体」というのも入っているかもしれません。

そしてそれにプラス「自分の希望」がミックスされちゃうんじゃないでしょうか。

自分の希望と客観的なことと、日常会話でハッキリ分けて話すことってできますか？

会議とか何かのディベートなら、それは出来ると思うし、またそうしなくちゃならないんですけど、日常会話で、「客観的意見」・「自分の希望」って混ぜて言ってませんか？

私も含めて、これを聞いてくださってるあなたも、それって、なかなかできないことだと思うんですよ。

そして何よりも、「親は親の立場で物を言ってる」んですよね。  
立場が違くと、モノの見え方や行動は違うんですよね。

だから親が色々うるさく言うてくるっていうのは、ある意味仕方ないって思うしかないんだらうなって、私は今、そんな結論を持っています。

勿論、30代の頃はそんなふうには思っていないでしたよ。

今お話しした「立場が違くと、モノの見え方や行動は違う」、というのは、「親」だけではなく、あなたの友達や職場の人、親戚の人など、あなたの周りの人にも言えることだと思うんですね。

例えば、子供がいるあなたの友達は、「子供がいる」という立場で物を見て話しているわけだし、

職場の人は「あなたの上司」または「あなたの同僚」として話をしているわけで、当事者ではないんですね。

子供がいる友達や同僚は「子供が居る親の目線」で話してくるんです。

勿論、毎回毎回うるさい位に「子供は？」なんて聞かれたらまいっちゃいますよね。

あなたが適当にそれを流せる人ならいいのですが、真剣に受け止めてしまうタイプなら苦しいですね。

あまりにプレッシャー過ぎて苦しいなら、

あなたが気分が良い時に、気持ちを落ち着けて、相手に「ごめんなさい。子供のこと言わないでくれるかな？色々考えることがあって辛いんだよね」って素直に言ってみてはいかがでしょうか。

この時、笑ったらダメですよ。

勇気を持って、真剣に相手の目を見て言ってみて下さい。

多くの方は「あ、そうなんだ」って気がついて、それ以上言わなくなっていくと思います。

この時、怒った口調で言わないで下さいね。

案外、この「言わないで欲しい」というお願いをしないで我慢しちゃったりする人も多んじゃないでしょうか。

ただ、今お話しした方法は、あなたのお友達や職場や周りの人には有効かもしれませんが、あなたの親には効かないと思います。

だって親は子供は言うことをきくものという頭がありますから。

私の親もそうでした。もう32~33歳になったいい大人の私に対して。

私はかなり抵抗していたのですが、あまりにも煩く言ってくるし、「不妊治療を全額出すから」と言われて、とうとう根負けしてしまったんですね。

私も「絶対子なしで行く」と決めたわけではなかったもので、断れなかったんです。

ということで、私がまずしたことは、

「病院探し」

でした。

不妊治療の専門の病院があるということは、なんとなく知っていましたが、どこがいいのかなんてことは全く知りませんでしたから、まず病院選びからスタートしました。

この頃既にインターネットはありましたよ（笑）

ホームページを持っていた病院もあります。

ただ、今のように情報は多くなかったですね。

当時はTwitterもない時代だったんです。

代わりに「情報掲示板」というのが沢山あったんですね。

その情報掲示板の中には「不妊治療」をしている人の書き込みがあって、それを見て情報を得ていましたね。

あとは「MIXI（ミクシー）」もちょっと使っていた記憶があります。

こうして私は不妊治療を始めることになったのですが、今回はそのあたりのことについてお話する予定です。

それでは、ここまでお聞きくださりありがとうございました。

では、また次の月曜日に！

萱野雫でした。